

なかつか 亮



大震災の経験ふまえ、障害者・患者・高齢者の避難生活を支える

福祉避難所の強化

区計画案に
盛り込まれる



震災から1ヶ月後の宮城県石巻市での避難所。体育館に毛布が一枚という状況です。

11月29日の区議会厚生委員会にて、今後3年間の介護保険事業の骨子(案)が発表されました。この中で「福祉避難所の機能強化」が明記。福祉避難所における防災用品の備蓄や日常的な訓練などが盛り込まれました。

東日本大震災での厳しい避難生活を目の当たりにし、区内障害者から「これが東京だったら自分たちはどうなるのか」と不安の声が寄せられています。共産党はこうした障害者の声を区議会で紹介し、災害弱者の避難生活における支援強化を要望してきました。災害弱者への支援が大きく前進です。

東日本大震災において障害者、患者、高齢者など災害弱者は津波などの避難情報さえ十分に届かず、一般の人の2倍の死者・行方不明者という報告があがっています。「障害者が避難所の床に横になれず、10日以上も車イスに乗ったままだった」など深刻な事態に、品川区で暮らす障害者や家族から「東京で震災が起きたとき、自分たちは

どうなるのか。ベッ
トやトイレはどうなっ
ているのか」と不安
の声があがりました。

品川区防災計画 の現状

現状の区防災計画には災害弱者が避難生活する二次避難所(福祉避難所)には毛布やベット、車イス、食料などの備蓄も介護や医療等の支援体制もありません。要援護者登録もほとんど進んでいないのが現状です。裏へ

共産党は9月区議会で要援護者登録の対象拡大、福祉避難所の整備、要援護者支援計画の策定などを求めました。

要望に対し区は「必要な対応を検討する」と答弁。今回発表された介護保険事業計画（案）に「福祉避難所の機能強化」が明記され、自家発電装置や防災用品備蓄の計画化、定期的な訓練などが盛り込まれました。

必要な体制を整えたい

整えたい

今回の計画について区は、東日本大震災を受け、大規模災害時に区内の高齢者施設や事業所が福祉避難所としての機能を果たすことを目指

し、出来るところから必要な対策を前倒して進める考え。「いざ震災が東京で発生した際に、特養ホームなどに利用者はもちろん近所の高齢者や障害者も避難できるように、必要な整備を行いたい」と話します。

備蓄品目や

体制強化を

災害弱者の避難生活を支える福祉避難所の機能強化が区の計画に明記されたことは大きな前進です。



津波で破壊された住宅

今後は利用者や施設職員の意見をふまえ、必要な備蓄品（水、食料、簡易ベツト、毛布、炊き出し用品）や医療や介護の体制強化など、計画の具体化が急がれます。

あわせて地震など発災直後の第一撃から、住民のいのちとその後の避難生活を支える住宅耐震化も欠かせません。区は住宅耐震化計画の見直しを来年度行う考えもあわせて示しました。

大震災から区民の命と暮らしを守るため、福祉と防災のまちづくりを今後も進めていきます。

なかつか亮

12月4日（日）滝王子稲荷神社での大井バザールは、気持ちの良い晴天に恵まれ、大勢のご来場で成功をおさめる事ができました。ご協力、ご支援ありがとうございました。衣類や日用品コーナーは大賑わい。子ども服・おもちゃコーナーは子どもや若い夫婦でいっぱい。もちつきはお昼には完売と大好評。終日、笑い声がたえない、にぎやかな一日となりました。これからも地域に根ざしががんばります。 なかつか亮



「おもちゃ3コ10円」の子どもコーナー。子ども服も3枚100円で大人気でした。

次回の『気軽な町の無料法律相談会』は日程が決まり次第お知らせします。急な相談ごとがなどございましたら、ご遠慮なくご連絡下さい。

連絡先 昼：区議控室5742-6818 夜：事務所3773-3231